

式辞

153名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは、今日から下関市立長府中学校の生徒です。私たち教職員、在校生一同、心からみなさんの御入学を歓迎いたします。

また、本日は多数のご来賓の皆様にご臨席をいただき、厳粛な中にもあたたかい入学式を挙行できますことに對し、厚くお礼申し上げます。

さて、新入生のみなさん、いよいよ今日から中学校生活が始まります。大きな期待と少しの不安で緊張していることと思います。呼び名も「児童」から「生徒」へ変わりました。このことは、みなさんが、一歩大人に近づいたことを自覚してほしいという願いが込められています。

中学生の3年間は、心も体も驚くほど成長します。だからこそ、立派な大人になるために、学習や部活動をはじめ、中学生の今しかできないことに、全力で取り組んでほしいと思います。

そのためには、まず、「稚心を去れ」とお願いしたいと思います。

この言葉は、江戸時代の終わりに活躍した橋本左内という人が、15才の時に書いた「啓発録」という書物にあります。

「稚心」とは、幼い心という意味です。つまり、「稚心を去れ」とは、幼い心を卒業しようということです。

稚心とは、すぐにわがままを言う心、

すぐに弱音を吐く心、

すぐに人に頼る心、

すぐに甘える心、
です。

幼い心を卒業して、心と体を鍛え、たくましい人間に成長するための基礎をつくってってください。

結びに、保護者の皆様、お子様の御入学、誠におめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。

私ども教職員一同、お子さまをお預かりした責任を果たすべく、最大の努力をするとともに、保護者、地域の方々と、しっかりと手を携えて、お子様の成長を見守っていく所存です。

どうぞ御協力・御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。以上、入学式に臨み、式辞といたします。

平成30年4月9日

下関市立長府中学校長 小山義記